



ひょうひょうたんより

No.8. 2013 11.1

カツーン、コーン♪と、どんぐりの落ちる音と時折響くアカゲラの声。そんな森でお互いの言葉にうなづき、微笑し、笑顔になっている10人のお母さんたちがいました。

10月の3連休、「第15回ママチャレキャンプ in 軽井沢」がひょうひょうの森で行われました。ママチャレキャンプはひょうひょう立ち上げのきっかけにもなったキャンプです。

このキャンプは3つのキーワードを柱にしています。「1. 自然はみんなのお母さん」

「2. わたなしと向きあう」「3. 子育てはたくさんの方とたくさんの笑顔で」です。

1と2の柱は、森で自然体験プログラムを通して行われます。子どもから離れ、ひととき「母」を忘れ、自然の中で思いっきり遊んだり、辛うじての日時間」を過ごします。子どもと離れるトドキと、わくわくを味わう体験とありますが、「離れること」によって得られる気づきは、なぜか反対の「つながり」なのです。自然の中で、自分の感覚と向き合うことで「母」「妻」以外の「わたし」を取り戻し、そんな風に「わたし」と向き合えたお母さんは、子どものつながり、夫、家族とのつながりに気づいています。そしてふりかえりの時間には「子どもと一緒にかけても、迷惑をかけないか、そればかり気にしないで…」「疲れていると、子どもの舌をうるさいと思ってしまう…」など、の奥にしまってある、想いを泣きながら話していました。それから、森との日時間を過ごしたこと、どんぐりの木も、かわいらしいつり花の実も、子育ての努力(戦略?)をしていることを知り、「こんなに偉大な自然が死んでしまうなら、ちいさな育児を死んでしまうのはありえない!」と自然でいる(自分でいる)ことの大切さ(今のままでいいんだ!ということ)を感じていました。

そんな姿は、凜として美しく、本当によちよと羨ましくらいでした。

そして、その大事な時間と支えるのが、せせらや立場を超えて保育スタッフの存在です。「育児はお母さん」ではなく、「育児」にいろいろな人が関わることを持てる場をつくること。それがキャンプの3つの柱です。「母と子」という1対1の関係から、様々な人同士が出会い、話し合いながら育児に関われる「場」でお母さんは普段と違う子どもの姿、自分のありかたを見ています。そうして子育てをすることは「母」「子ども」もこんなにいいせいのか、と気づき、なんとなくかどの人もす、さりとした笑顔で我が家へと帰っていくように思います。

ひょうひょうからエ茂木さんが今回参加してくれました。かよさんが森でのプログラムを終え、帰ってきた時に「かあちゃん、森の中たのしかった?」と聞いてきたそうです。「とっても楽しかったよ。」と答えると「でしょ♪」と一言。私もそれを知って本当に嬉しいと思いました。

ママチャレキャンプでお母さんたちが感じたこと、ひょうひょうの子どもたちも日々、森の中で、仲間たちに囲まれて、感じているのではないでしょうか…。

菜々恵

おあきいくみたよ)

散歩コースのひとつに「浅間絶景コース」があります。浅間山の横にちょこっと見えるのが小浅間山。まつぼうくりさんは、「あそこに登ったよねー」、くりあおくりさんは「あそこ登ったよねー」と見ひいた山です。今年はお休みせいで…おあきいくみ全員で登ってきました。

登山の数日前、不安な気持ちで言葉にしていた(悠)。朝一番に「たんじん山に行きたい気分になってしまった!」と頼もいー言。朝の集まりでは、「お父さんがiPhoneで調べてみて今日晴れって言、これ」と(朝)がみんなに教えてくれます。みんなの気分も高まっています。

最初はなだらかな坂道。森に沢山のシダが生えているのを見て「恐竜いるみたい!」、けもの道をかけたと「イシジの道」と大きな声で教えてくれるのは(園)。スタートから奥領金剛で「まだかね? でへん。もうすぐ?」と出発して10分もたぬうちから(櫻)は、とほけています。歩く人の12%からは千ユーフが出ていて、直接水が飲めるようになりますが、みんながそれを飲んでいるのを見て「まゆさんのおっぱい飲んでみたいため」(櫻)。(行)には、紙を吸うコヅがつかめないようで、首を傾げながら何度も机に戻る。上手に飲んでる人達を見て「本番させよ!」と訴えています。「わたし小浅間また2回なんだ。中国にいたから…」と久々の登山に何度も不安を漏らしていく(原)。その言葉とは裏腹に、時々先頭集団で走り、足取りはしなかりっていました。「まゆさん、渡れ子ね」と笑顔で言いながらも一歩ずつ確かな歩みの(原)。最後尾の(遠)(明)(陽)はおしゃべりが樂しくてしょうがない。立ち止またり丸くなったり夢中です。同じペースで歩いている(原)は「すみません! あるいくたーい!」で何度もお願いしています。(ひれで引いて)は、「この人たち、(やまたね。)と一言(笑)。何度も転ぶやけども全然泣かずた立ち上がりマイペースで歩く(心)。他の登山客に「何歳? すこいねー」と声をかけられ「3歳!」と指で3本立てニコニコでした。(原)(食)は常に先頭集団。さわやかな表情で弱音を一切なし。誰かが走り出す一緒に走り決して(原)を離しません。何とかが「渡れ子…」と言いつめたり、「どうこの辺に? 渡れ子は恐竜とかいるなあ。」と(原)。(原)「原も渡れ子の?」(原)「いやや、渡れ子は恐竜とかいるんだよ…」過去2年、いつも最後尾(原)にいた(原)。今年は常に先頭集団でシャキシャキ歩いています。「この靴は歩きやすい。白馬に登ったから全然平気!」と自信たっぷり。「で、やん着いたらケトロ(ようね!)」(原)。気持ちはすでに頂上です。

ハヨリが最後の見事な登り。小石たきで足場も悪く、思わず手を差し込んで四つん這いで登りました。それでも「今年は手とつかめなかた!」と一年前の成長を実感している(海)。頂上に向かって最後ダッシュするように登る(行)(國)。そして頂上に着いたら、うつむきを背負ってまく(原)。一番最後で高く(心)(明)のところまで行き、2人一歩とかけあっています。「清里キャンプより大変」と弱音を吐いています。頂上にあるケルンが崩れているのが気になり、みんなが集まきてなあとてくれていました。

9時50分に出発し、11時15分に全員登頂! 記念撮影をして、お弁当。(陽)は自分で握ておにぎりをかい(そ)に(ぼう)いました。例年より早いペースで到着し、頂上で(原)が(原)を抱いていました。ケトロ、おにぎり、かくしんぼ、さく3つごじ…。ハフモのひ、ひの麻と同時にみんなで遊んでいます。あ、ていう間に下り3時間。「えー、もう遊んでたい!」の声が(原)から(原)で(原)。

砂利の下り道。滑る尾もつく人も続出。みんなの手をかり握手とこうなからおともおとも下る(悠)。その前を(理)(後)(遠)が、「上千に転へは大丈夫!」とお手本を見せてくれ。(原)も元気でけます。(明)は「手をつかないで絶対おもしろ! 転んでも大丈夫! たとえ生徒会長万一人!」と何かにがりきして意気揚々。過去2年連続休調でくま(原)であ休みで、今年も(原)でした(原)。登りも下りも常にトトロ(原)で足取り軽やか。時々走り出し、何度もストップでかけらるほど。帰り道でも「ね、やん、全然渡れ子っぽい人だよー」と余裕でした。

日常的にたくさん歩き、あそびい子と子(原)、みんな渡れ子を見せず、秋始いかりして足取)。秋の小浅間山を満喫した1日でした。今度の浅間絶景コースの散歩で、小浅間山をみんなで見るのがたのびです。

お知らせ

先日 10/24 わかさくみで水害を想定して避難訓練を行いました。あれだけ遊びで夢中になっている子ども達が合図と共にと集まり、大人の話をしっかりと聞き、静かに素早く行動を説明せました。前回とは違い車の移動という新しい事を学びました。子供達は大人が自分の事に対して大切に取り組むのをこれからも積み重ねたいと思ひます。

- 和洋室・和布当で薪ストーブを温め始めます。11/1(月)~です。木屑で包み、はっきりわかるように記名を和願します。みんな伴い、建坪が不足しています。ご協力いただける方ほど多く和願します。
- 冬到来も間近と判りました。外に長い時間いるのと想像以上に冷えています。トイレに行く回数も増えました。着ているものは、暖かいハイソックスや重ね着、3L7 和着が玄バッグにて、寒さ装備を和願します。
- 10/30 ㈯ 脱穀が終わり、いよいよ新米をいただき時と同様、和洋の方達と一緒に収穫感謝の一日を過ごしたいと思ひます。訓練事は、後日アリバを配布いたしますが、日には、11/2(火)(予備日は13日です)。
- 11/7(木) わかさくみは レクの森での保育にいきます。時間、場所は通常通りです。大なりの保護者の方達は、レクの森でご案内して貰いたいと思ひます。ご希望の方は、9時20分に駐車場にて集合下さい。大なり以外の方も、前回見本田から方舟を貰っておられたら、一緒に歩いて下さい。
- 11/14(木)の松木正さん講演会の和席にまだ余裕があります。和知識の方はお詫び下さい。きっと心動かされる和幹が聞けると思ひます。
- 11月のアート日 18日(月) 28日(木)
- 11月の練習会の日 5日(火)
- 11月のくるみの日 27日(水)
- 和室の保育を眺めながらのんびり歩きや和やかべいの時と比べて

- 11/25(月) わかさくみは電車に乗って別所温泉へ行きました。別アリバを出しますので、訓練には和願下さい。

- 軽井沢中学校2年生4人が今年も11/7(木)8(金)にひつじぐるみ場体験を行います。若い人は幼い子ども達を通して自分の仕事方や考え方等と接する機会だと思います。

- 伊那市にあるNPO法人「山の遊び舎 ほらべこ」の保護者の方達が遊びの一環として保育園見学会を行います。まだ日程は決定していませんが11月後半です。

「和えんの会」の和知らせ

日時 12月1日(日) 9時~9時15分集合 2時解散
場所 レクの森
焚き火を囲んで和料理・食べ・和やべ)を準備して下さい。
あたたかい格好で11月12Tm.
持ち物 マイ食器(和紙、和皿、和竹...) 水筒、軍手、ラジオ代300円
11/22(金)午後 ご参加を和知らせ下さい。

保護者会の和知らせ

日時 12月3日(火) 9時20分~
場所 バイブルキリスト教メニホール
ご出席を多く和願します。

- 時々保護者入って下さった「和えん」が定期的に入って下さる回数が増えておりました。
ご経行下さい。

こんちは、遊びの和干行で下さった「和えん」の本職聖子と申します。結婚で機会で幼稚園を退職。しばらく保育の場から離れていたが、野外保育に興味を持ち、遊びを知り、見守希望で和願いしました。自然の中で生きるエネルギーを聞けながら和室で集中して見せる子ども達、4歳(1)と5歳(2)が異年齢の子ども達が助け合って遊んでいます。3歳(1)が想像力を膨らませ、遊んでる姿にとて感動しました。これから遊び場所と通じて時間が半12ヶ月。宜しく和願い下さい。

田畠[たばり]

今年は夏の猛暑、干燥[かうしゆ]に加えて秋の台風…すなはち「台風」が「秋」といふわけだ。一度目は台風で一つが倒れて木に落[おち]りもう一つも倒れかかり、二度目の台風には二つが倒れてくれたものの、何度もひどく雨にめれて、葉や草がカビてきてしまっています。それでも太陽の力はすごい…お米の部分にはまだ草生えています。

お米の脱穀[だつこく]は足踏み脱穀機といふ農家[のうか]で使[つか]う。人力で動かす道具[ぐうび]を使[つか]う。その紋[もん]柄[ぼう]（モチ）すりといって、お米の一筋[一本]外側[そとわき]の糊[ぬ]を外して玄米[げんまい]にする作業[さぎょう]が必要[ひつよう]です。これがなかなか難しい。昔[むか]からビン[びん]に入れて糊[ぬ]を棒[ぼう]で突[つ]いて、ヨリ金[きん]本[もと]に入れた物[もの]に野球[やきゅう]の硬式[こうしき]ボール[ボール]をこすりつけたり…今年も色々試[ため]します。

お米は口に入るとまだに時間がかかります。早く新米[しんまい]が食べたいなあ！：美和子



ひ、ひレシピNote '鶏肉のチリソース丼'

- ・ニンニク・レバ[レバ]のみじん切りをコマ油[コマ油]で炒めて香りを出します。
- ・ニニハ一口大[一口大]に切った鶏もも肉、長ねぎ、玉ねぎ、人参[にんじん]を加え、エスニキヤ味[エスニキヤ味]で炒めてからよく炒めます。（この味 みゆきせび ズッキーニ・ピースンアビモ。）
- ・三ニハ お酢[お酢]・酒[酒]・みりん・こまかい糖[こまかい糖]としお[しお]を混ぜ入れ、トマトケチャップ[トマトケチャップ]を加え熱湯[ねつとう]を注いで味を整えます。（エビチリや酢豚[酢豚]の味をイメージ…。）
- ・水溶き片栗粉[水溶き片栗粉]でとろみをつけて、ご飯[ごはん]にかけて出来上がり。
- ・お肉は豚[ぶた]に羊[ひつじ]・ひき肉[ひき肉]などでもOK、もちろんエビ・イカなど魚介類[魚介類]もおいしい。
- ・野菜[やさい]も季節[季節]によってカブ・大根[だいこん]・白菜[しらべ]やピーマン・トマトなど何でも合います。
- ・季節[季節]の変わり目に長ねぎ・ニンニク・レバ[レバ]を丁寧[ていねい]に使って身体[身體]を温めましょう。

ひ、ひの森の小鳥たち（10月 カケス）

色づいた森の奥からシャー！シャー！とにぎやかな声が聞こえてきます。ものまね上手で、頭[かぶ]がいいカケスの声です。カケスは通常[じょうじょう]用[よう]い深く、あまり姿[すがた]をみるとことになりませんが、この季節[季節]は別！カケスはどんぐりが大好物[だいすきもの]です。どの奥[おく]に3～6個[かず]ものどんぐりをのみこみ、さらに口[くち]にひとつづつわざて運びます。来たるべき冬[とう]に備えて、数百個[いくつ]ものどんぐりを地中[ちゆう]に埋め、蓄え[ため]るのです。

しかし、いくら頭[かぶ]のよいカケスといえども、全ての場所[ばしょ]を見[み]えていろわけではありません。

どんぐりは木[木]から落ちただけでは、ここでは乾燥[かんそう]のためそのまま土[ど]へと返っていくのですが、カケスが埋め、そして忘れてくれることにより、芽[め]生えることができるのです。

どんぐりにとってカケスは、大切なパートナーなのかもしれません。

